

博学連携による教育活動で大切な視点

博学連携の教育活動の質を高め、児童生徒の学習効果を一層高めるためには、次の視点から取り組むことが大切です。

- 学校の年間指導計画に位置付ける。
- 主体的・対話的で深い学びを実現する。
- 教員と博物館・美術館等の職員が次のことを共有する。
 - 目指す児童生徒像
 - 指導の役割分担
 - 授業実施後の評価



これらのことを実現するためには、博物館・美術館等の利用の準備や教材の選定、教員と博物館・美術館等の職員が歩調を合わせて指導に当たるための打合せの時間が必要となります。

そこで、より短時間で充実した打合せを行うために、学習の流れが一目でわかる「学習構想図」を作成すると効果的です。

【学校の年間指導計画に位置付ける】

博学連携による教育活動を長く続けるためには、学習指導要領に示された学習内容との結びつきを明確にし、学校の年間指導計画に記述することが必要です。各教科の目標や内容に即して、無理のない計画を立てるようにします。

【打合せシート】

学習構想図を作るのはちょっと難しい、時間が確保できないという場合には、必要なことを書き入れた「打合せシート」を作成し、博物館・美術館等と打合せを行うことが必要です。

打合せシート

- 利用日時 平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇)
午前9時30分から午前10時50分まで
- 利用学年・人数 小学校 第6学年 〇〇人
- 学習内容
 - ①教科等 社会科
 - ②単元名(テーマ等) 大和朝廷による統一
 - ③利用時の学習過程 導入 / 展開 / 終末
 - ④児童・生徒の学習後の姿
- 利用形態 団体見学(学級単位 2組/グループ単位 1班)
 - ・大型バスの駐車 必要(2台) / 不要
 - ・荷物置き場の確保 必要 / 不要
 - グループ見学(〇グループ来館)
 - その他()
- その他 博物館職員の役割・児童生徒からの質問等

児童生徒の学習後の姿を具体的な行動や言葉で記述し、教員と博物館・美術館等の職員とで打ち合わせる。

○土器が何に使われていたのかを考えると、そのころの生活の様子がわかりそうです。
○博物館で見た土器は、どうやって作ったのか調べてみたいです。
○私たちのまぢで見つかった土器を、多くの人に紹介したくなりました。

児童が「知りたい!」という気持ちをもてるように、土器の魅力や考えるポイントについて、展示を見せながらお話しください。

児童生徒が、学習意欲をもち、主体的に問題解決に取り組めるよう、学習過程に応じて教員と博物館・美術館等の職員とで指導の役割を分担する。

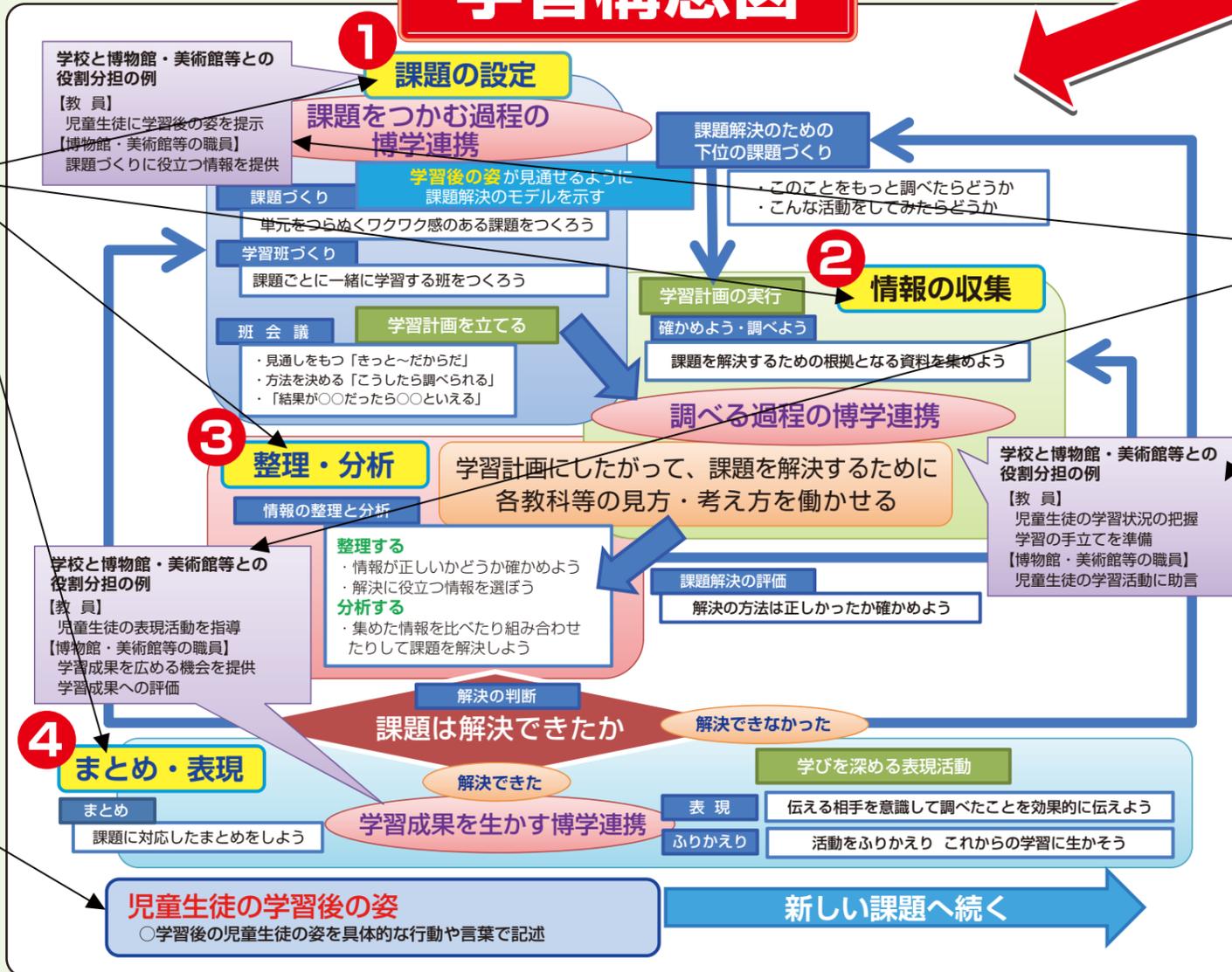
【役割分担を明確にする】

目指す児童生徒の姿を共有し、その実現に向けて、指導に当たる教員と博物館・美術館等の職員とで指導や準備の役割を分担します。それぞれの専門性を生かした分担にすることで、より質の高い教育活動が展開できます。

【評価を共有する】

目指す児童生徒の姿に照らし、指導の効果があつたのか、評価を共有します。児童生徒の成長は、ひとつの活動だけでは十分に把握できない場合もあるので、期間を決めて、相互の評価を交換し合う場をもちます。

学習構想図



【主体的・対話的で深い学びを実現する】

児童生徒の学習効果を高めるためには、博学連携による教育活動を、協調学習や問題解決的な学習の学習過程に組み込むことが有効です。教員は、協調学習や問題解決的な学習のどの学習過程において、博物館・美術館等の職員の協力を得たいのかということを知りやすく示すことが必要です。

【目指す児童生徒像を共有する】

博学連携による教育活動を通して目指す児童生徒の姿のイメージを、教員と博物館・美術館等の職員とで共有することが必要です。同じゴールの姿を共有することで、活動の評価が可能になり、より実効性の高い教育活動が展開できます。

